

長洲事件裁判支援・ナースアクション公開学習会の概要報告

日時:2024年9月2日(月)17時15分~18時50分 YouTube 配信

テーマ:『長洲事件から見えるもの~ 准看・ジェンダー問題と日本の貧困~』

講師:ジャーナリスト/上智大学文学部新聞学科教授 水島宏明 氏

参加:オンライン 438人 現地 16人 合計 454人

司会進行 宮川理事

開会あいさつ 川上副会長

本日の学習会は全日本民医連と熊本民医連との共催で企画しました。この間、全日本民医連からの発信もあり長洲事件への理解が全国に広まり、熊本民医連事務所に連日たくさんの署名が届いています。まさに困ったところに民医連ありを実感するとともに、ご支援に深く感謝します。さて、長洲事件とは熊本の長洲町に住む老夫婦が生活保護を利用する際、看護専門学校に進学していた同居中の孫を「世帯分離」(孫の保護は認めず)され、祖父母のみを対象世帯として保護開始。孫は、自力で生活費と学費を賄って准看護師の資格を取得し、准看護師として働きながら正看護師課程に進学しましたが、孫の収入が増えたことを知った福祉事務所は、今度は孫に祖父母への援助を求め「世帯分離」を解除。孫を世帯に組み入れ、年金と孫の収入で生活させようと、生活保護を廃止しました。「祖父母の生活費まで出すと、学校を続けられなくなる」。孫は福祉事務所に訴えましたが、聞き入れられず、さらに福祉事務所は、孫の部屋のドアを30分以上叩き続け、援助を迫りました。絶望した孫は1年間、看護専門学校を休学せざるを得ませんでした。祖父母が地裁に提訴し勝訴しましたが、熊本県が上告し逆転敗訴の判決が出されてしまいました。到底容認できない判決であり、現在最高裁に向けてたたかっています。講師にお招きした水島さんは、ジャーナリストとして生保、准看問題を取材されてこられ、「民医連医療誌」連載記事の中で長洲事件にも触れていただいています。みんなで学んでナースアクションの力にしたいと思います。

学習講演:『「准看護師」と「生活保護」を考える』

講師:ジャーナリスト/上智大学文学部新聞学科教授 水島宏明 氏

わたしの大きなテーマは貧困問題です。だいたい6~7年のスパンで「生活保護」「お礼奉公」「ネットカフェ難民」の問題に出会い取材し報道してきました。

1987年に札幌での餓死事件を取材し「母さんが死んだ~『生活保護』の周辺~」(札幌テレビ)という作品を制作しましたが、当時は生保の申請窓口で女性が相談に来ると「夜働け」つまり身体を売れという事を平気で言われ、本当に虫けらのような扱いを受けていたことが分かりました。その後90年代にお礼奉公問題を通じて准看制度という複雑な仕組みを知る事となり、報道番組で「お礼奉公反対キャンペーン」を張ると、テレビ局への反響の電話が鳴りやまず、証拠や証言や手紙もたくさん寄せられました。97年に「天使の矛盾~さまよえる准看護婦~」(札幌テレビ)として91年から続けた取材をひとつにまとめて報道しました。YouTubeから観ることが出来ますので、是非参考にしてください。 <https://youtu.be/nuNssrLY2SA>

病院で働くことを条件に准看学校に通い、病院の賃金明細に「奨学金手当」という名目を設けて支給、准看資格取得したら「奨学金手当」は貸付だから返済の代わりにとお礼奉公を迫り、断ると違約金として数百万円もの高額な金銭を要求するということが常態化していたわけです。更に資格取得前の学生が一人夜勤を月に12回もさせられ、注射や与薬などの医療行為をさせられていたことも明るみに出ました。寄せられた手紙には「もう限界です」「助けてください」という訴えが克明にしたためられていました。90年には准看学生が誤って牛乳を点滴し患者を死亡させたために罪に問われ、医療行為をさせられていた学生が罰せられました。“ひとり夜勤”の重圧で自死に追い込まれたケースもその後に発生します。また取材を続けていくうちに「知られざる看護職員養成」の歴史として“副看護婦”という資格を北海道と東京の医師会が付与していたという証言と資料も出てきます。更に准看学校の教員として働く看護婦もまた、教員教習費という名目で借金を負わされお礼奉公をさせられ、しかも学生には学業よりも看護助手としての労働を最優先させるよう医師

会という組織の無言の圧力がかけられていました。このように、あらゆる手段で縛り付け働かせる仕組みが出来上がっていました。社会問題となるなかで訴訟では当然お礼奉公は違法と断罪されます。国会で大臣が実態調査を答弁したことで厚生省も動き、日本医師会の役員もメンバーに加わった調査会で「看護職養成の統合」すなわち、准看護婦廃止が全会一致で確認されますが、医師会は賛同した覚えはないと開き直ります。遅くとも 2005 年までには准看廃止と行政が明言していたにも関わらず、未だに准の文字は残されています。

“生活保護”をめぐっても“准看問題”をめぐっても、共通して見えてくるものは“ジェンダー問題”です。生保の水際作戦の犠牲となった圧倒的多数は、シングルマザーです。女性が子育てをするのを当然視する社会と、子育て中であるが故に非正規・不安定労働が多い女性の貧困が背景に存在します。“准看問題”も医師は男性、看護婦は女性という構図の中で、医師（開業医）が「(准看学生を) 養ってやっている」という男社会の“上から目線”の意識と、圧倒的に不均衡な力関係にあって、深刻な「セクハラ事案」も頻発していました。「不適切にもほどがある」というドラマがあります。昭和での「常識」が現代ではハラスメントとされているわけですから、時代の変化や常識とは何かを考えていく事も大切です。そもそも、働きながら学ばなければ看護職になれないということこそ問題なのだということを、解りやすく社会や裁判所に伝えていくことが必要だと考えます。当事者が過度に負担なく未来の職業選択ができる社会をめざすべきだと思います。

【質問に答えて】

Q) 諸外国との比較が分かれば教えてください。

A) 特派員として駐在していたのはイギリスとドイツでしたので、ヨーロッパの例ですが、日本では所属している会社で人を判断しますが、イギリス・ドイツでは人を職業で判断します。ひとりのプロ(ジャーナリスト)としての水島として見られるのです。ひとりひとりの当事者意識が高いこともありますが、「俺が飯を食わせてやっている」というような感覚は無いと思います。

Q) お礼奉公＝奨学金制度ということでしょうか？立場を利用され契約書に記載がないことを(勤務の強要や退職が認められないなど) 口頭で求められたということでしょうか。

A) 正規の契約ではないから恫喝するわけです。特に北海道という狭い地域で「俺の目の黒いうちは看護婦として働けないようにしてやる」等と睨まれたら、逆らえないわけです。

Q) 難しい問題を解りやすく伝える極意を教えてください。

A) 水際作戦もお礼奉公の報道も、どちらもテレビ局として情報提供を求めて「当事者の声」を集めました。これによって、NHK や民放キー局も把握していない様々な「問題」を浮かび上がらせることが出来ました。難しい問題を理解してもらうために、マスメディアは問題を白か黒かとシンプルにします。そのことへの批判はありますが、伝えるためには必要だと思っています。実はリーマンショックの時の貧困とコロナ禍での貧困との比較研究をしたことがあります。コロナ禍で「学生の貧困」という問題が大きく取り上げられるようになった要因は当事者が SNS で発信した事にあります。Instagram や TikTok で柔軟にキャッチーなフレーズで当事者が実状を伝えたからです。今の若い人たちは SNS での発信に長けていますから、思い切って委ねてみる、相談しながら創っていく事が求められていると思います。

閉会あいさつ〔行動提起〕 熊本民医連 中山事務局次長

この間全国から 1 万 3 千筆もの紙の署名が届きました。心から感謝申し上げます。長洲事件では看護師になることがまるで贅沢品のことのように扱われていますが、これはケア労働を評価しない、いのちよりも経済や軍拡を優先する政治の表れだとも言えます。弁護士さんからのお話を受けて、熊本民医連で働きながら看護師となった職員の声などをまとめて高裁に届けましたが、わずか 30 秒足らずの時間で不当判決を言い渡され茫然自失となりました。今年度も取り組まれた全国看護学生アンケート調査の結果からも、看護学校の学費無償化、高等教育無償化は必要だと思います。長洲事件裁判支援署名は、引続き 9 月末を節目に 10 月中旬まで継続します。10 月 27 日～28 日には熊本で看護介護活動研究交流集会が開催されます。その時に良い報告が出来るよう、全国からのご支援をどうぞよろしくお願い致します。